

安全データシート

作成日 2018年11月 5日
改訂日 2024年 1月22日

1.製品及び会社情報

製品名： OSカラーSK-FF
会社名： オバナヤ・セメントックス株式会社
住所： 三重県いなべ市北勢町東村1339
電話番号： 0594-72-6488
FAX番号： 0594-72-6253
担当部門： 製造部 工場管理課
整理番号： M3301

2.危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性： 区分2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： 区分1
発がん性： 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 区分1
特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 区分1

※ 危険有害性クラスの記載がない場合は、「区分に該当しない」または「分類できない」

GHSラベル要素



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 皮膚刺激
重篤な眼の損傷
発がんのおそれの疑い
臓器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

注意書き：

《安全対策》

使用前に安全データシート又は取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
保護手袋／保護眼鏡／保護面／保護マスク等を着用すること。
指定された個人用保護具を着用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

《応急措置》

特別な処置が必要である。(ラベル／SDSを医師に見せ判断を得よ。)
気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合：多量の水／適切な薬剤で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

《保管》

容器を密閉して涼しく換気の良い場所で、施錠して保管すること。

《廃棄》

内容物や容器を法令に従って適切に廃棄すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分及び含有量：

成分名	含有量	CASNo.	化審法
エチレングリコール	1～10%	107-21-1	2-230
酸化チタン(IV)	0～20%	13463-67-7	1-558
酸化第二鉄	0～20%	1309-37-1	1-357
フタロシアニンプルー	0～10%	147-14-8	5-3299
臭素化フタロシアニングリーン	<1%	14302-13-7	5-3318
塩素化フタロシアニングリーン	0～10%	1328-53-6	5-3315

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害性成分：

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

エチレングリコール、酸化チタン(IV)、酸化第二鉄、フタロシアニンプルー、臭素化フタロシアニングリーン、塩素化フタロシアニングリーン

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

エチレングリコール、酸化チタン(IV)、酸化第二鉄、フタロシアニンプルー、臭素化フタロシアニングリーン、塩素化フタロシアニングリーン

4.応急措置

一般的な措置：

気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師の診断／手当を受けること。

皮膚に付着した場合：

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

衣類にかかった場合は、服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。

多量の水と石鹸で優しく洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。

眼をこすらせてはならない。

眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当を受けること。

医師にばく露物質名、防護のための注意を通知する。

飲み込んだ場合：

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。

医師に対する特別な

注意事項：特別な措置が必要である。

5.火災時の措置

消火剤：

周辺設備に適した消火剤を使用する。

火災の場合は霧状水、噴流水、泡、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項：

回収が終わるまで十分な換気を行なう。

換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。

環境に対する注意事項： 封じ込め及び浄化の	適切な保護具を着用する。 こぼれた場所はすべりやすいため注意する。 着火源を取り除くとともに換気を行なう。 風上から作業し、風下の人を退避させる。 安全に対処できる場合は漏洩を止める。 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。
方法・機材：	不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。 多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。
二次災害の防止策：	漏出物を回収すること。 汚染箇所を洗剤、水で洗い流す。 回収物の廃棄方法については、専門家の指示を求める。 安全に対処できるならば漏洩を止めること。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないようにする。(取扱者のばく露防止) 皮膚に触れないようにする。 眼に入らないようにする。 吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。 指定された個人用保護具を使用すること。
衛生対策：	取扱い後は手、汚染箇所をよく洗うこと。 取扱中は飲食、喫煙してはならない。 眼、皮膚、衣類に付けないこと。 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 休憩、終業時は手を洗い、うがいをする。
保管上の注意：	涼しいところに置くこと。 国際/国/地方の規則に従って保管すること。施錠して保管すること。 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。 飲食物、動物用飼料から離して保管する。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度：	データなし
許容濃度：	(酸化チタン(IV)) 日本産衛学会(第2種粉塵)(吸入性粉塵)1 mg/ m ³ ; (総粉塵)4 mg/ m ³ (酸化第二鉄) 日本産衛学会(第2種粉塵)(吸入性粉塵)1 mg/ m ³ ; (総粉塵)4 mg/ m ³ (エチレングリコール) ACGIH(2017)TWA: 25ppm(V); STEL: 50ppm(V), 10 mg/ m ³ (I, H)(上気道刺激) (酸化チタン(IV)) ACGIH(2021)TWA: 2.5 mg/ m ³ (R)(下気道刺激;肺塵症) (酸化第二鉄) ACGIH(2006)TWA: 5 mg/ m ³ (R)(じん肺)
設備対策：	適切な換気のある場所で取扱う。 手洗い/洗顔設備を設ける。
呼吸器の保護具：	換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具：	保護手袋を着用する。
眼の保護具：	保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具：	保護衣を着用する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態:	粘稠液体
色:	各色
臭い:	特有臭
融点/凝固点:	データなし
爆発下限界及び	
爆発上限界/可燃限界:	データなし
引火点:	データなし
自然発火点:	適用外
分解温度:	データなし
pH:	弱アルカリ性
溶解度:	水に対する溶解度:混和する
n-オクタノール/	
水分分配係数(log 値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.1-1.3g/cm ³
粒子特性:	適用外
初留点/沸点:	100°C

10.安定性及び反応性

安定性: 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

11.有害性情報

急性毒性 経口:	[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠] 急性毒性 経口 の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。 [成分データ] [日本公表根拠データ] (エチレングリコール) rat LD50=6140 mg/kg (PATTY 6th, 2012) (酸化チタン(IV)) rat LD50>5000 mg/kg (SIDS, 2015) (フタロシアニンプルー) rat LD50>10000 mg/kg (SIDS, 2002) (塩素化フタロシアニングリーン) rat LD50>2000 mg/kg (厚労省既存化学物質毒性DB, (Access on Sep.2016)、SIDS(2010)) (酸化第二鉄) rat LD50>10000 mg/kg (HSDB, Access on July 2019)
急性毒性 経皮:	[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠] 急性毒性 経皮 の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。 [成分データ] [日本公表根拠データ] (酸化チタン(IV)) hamster LD50>10000 mg/kg (HSDB, Access on May 2016)
急性毒性 吸入:	[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠] 区分4に分類される成分 エチレングリコール $(100/ATE_{mix}) = (\text{区分1に分類される成分の含有量合計}/\text{区分1の ATE}) + (\text{区分2に分類される成分の含有量合計}/\text{区分2の ATE}) + (\text{区分3に分類される成分の含有量合計}/\text{区分3の ATE}) + (\text{区分4に分類される成分の含有量合計}/\text{区分4の ATE})$ $(100/ATE_{mix}) = (\text{区分1に分類される成分の含有量合計}/(0.05 \text{ mg/L})) + (\text{区分2に分類される成分の含有量合計}/(0.5 \text{ mg/L})) + (\text{区分3に分類される成分の含有量合計}/(3 \text{ mg/L})) + (\text{区分4に分類される成分の含有量合計}/(11 \text{ mg/L}))$ 10.0<区分4<=20.0の範囲を超えるため、区分に該当しない。 [成分データ]

[日本公表根拠データ]
 (エチレングリコール)
 mist:rat LC50=2.7 mg/L/4hr (PATTY 6th, 2012)
 (酸化チタン(IV))
 dust:rat LC50>5.09 mg/L (SIDS, 2015)
 (酸化第二鉄)
 dust:rat no death at 5.05 mg/L (REACH 登録情報 ; Access on Aug. 2019)

皮膚腐食性/刺激性 : [製品]

区分2, 皮膚刺激

[成分情報を用い加算方式を適用した分類根拠]

皮膚区分2に分類される成分

酸化第二鉄;エチレングリコール

(10×皮膚区分1)+皮膚区分2>=10%であるため、皮膚区分2に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(エチレングリコール)

ヒト刺激性 (SIDS, 2009)

(酸化第二鉄)

ヒト 中等度の刺激性 (ICSC(J), 2004et al)

眼に対する重篤な

損傷性/眼刺激性 : [製品]

区分1,重篤な眼の損傷

[成分情報を用い加算方式を適用した分類根拠]

眼区分1に分類される成分

酸化第二鉄

眼区分2Bに分類される成分

エチレングリコール

皮膚区分1+眼区分1>=3%であるため、眼区分1に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(エチレングリコール)

ラビット 軽微な結膜刺激 (CICAD 45, 2002)

(酸化第二鉄)

ヒト 腐食性 (IUCLID, 2000)

呼吸器感作性 :

[成分情報を用いた分類根拠]

呼吸器感作性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

皮膚感作性 :

[成分情報を用いた分類根拠]

皮膚感作性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

生殖細胞変異原性 :

[成分情報を用いた分類根拠]

生殖細胞変異原性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

発がん性 :

[製品]

区分2,発がんのおそれの疑い

[成分情報を用いた分類根拠]

区分2に分類される成分

酸化チタン(IV)

区分2>=1%であるため、区分2に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酸化チタン(IV))

cat. 2: IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010et al.)

[IARC]

(酸化チタン(IV))

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(酸化第二鉄)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

[ACGIH]

- (エチレングリコール)
 A4(2017) : ヒト発がん性因子として分類できない
 (酸化チタン(IV))
 A3(as Finescale particles) (2021) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの
 関連は不明
 (酸化第二鉄)
 A4(2006) : ヒト発がん性因子として分類できない
 [日本産衛学会]
 (酸化チタン(IV))
 第2群B : ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質
- 生殖毒性 : [生殖毒性:成分データを用いた分類根拠]
 生殖毒性を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
 [授乳に対する又は授乳を介した影響(追加区分):成分データを用いた分類根拠]
 授乳影響を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。
- 催奇形性 :
 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露) : [製品]
 区分1, 臓器の障害
 [成分情報を用いた分類根拠]
 区分1に分類される成分
 エチレングリコール;酸化第二鉄
 区分3(気道刺激性) に分類される成分
 エチレングリコール
 区分3(麻酔作用) に分類される成分
 エチレングリコール
 区分1 \geq 10%であるため、区分1に分類した。
 10% $>$ 区分1 \geq 1%であるため、区分2に分類した。
 [成分データ]
 [区分1]
 [日本公表根拠データ]
 (エチレングリコール)
 血液系、中枢神経系、腎臓 (NITE 初期リスク評価書, 2007; SIDS, 2009)
 (酸化第二鉄)
 呼吸器 (ACGIH 7th, 2006; HSDB, Access on July 2019)
 [区分3(気道刺激性)]
 [日本公表根拠データ]
 (エチレングリコール)
 気道刺激性 (NITE 初期リスク評価書, 2007; ACGIH 7th, 2001)
 [区分3(麻酔作用)]
 [日本公表根拠データ]
 (エチレングリコール)
 麻酔作用 (NITE 初期リスク評価書, 2007; ACGIH 7th, 2001)
- 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露) : [製品]
 区分1,長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
 [成分情報を用いた分類根拠]
 区分1に分類される成分
 酸化第二鉄;酸化チタン(IV)
 区分1 \geq 10%であるため、区分1に分類した。
 [成分データ]
 [区分1]
 [日本公表根拠データ]
 (酸化チタン(IV))
 呼吸器 (SIDS, 2015)
 (酸化第二鉄)
 呼吸器 (ACGIH 7th, 2006; DFGOT vol. 2, 1991)

誤えん有害性： [成分情報を用いた分類根拠]
誤えん有害性を有する成分を含まないため、区分に該当しない／分類できない。

12.環境影響情報

水生環境有害性： [成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 短期(急性)]
短期(急性)区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない／分類できない。
[成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 長期(慢性)]
区分4に分類される成分
酸化チタン(IV)
区分1、区分2、区分3、または区分4のいずれにも分類されないため、区分に該当しない。
[成分データ]
水生環境有害性 短期(急性)
[日本公表根拠データ]
(エチレングリコール)
魚類(ヒメダカ) LC50 > 100 mg/L/96hr (環境省, 2001)
(酸化チタン(IV))
甲殻類(オオミジンコ) EL50 > 100 mg/L/48hr (SIDS, 2015)
(塩素化フタロシアニングリーン)
甲殻類(オオミジンコ) EC50 = 153.6 mg/L/48hr, 魚類(ニジマス) LC50 = 355.6 mg/L/96hr (SIDS, 2010)
水生環境有害性 長期(慢性)
[日本公表根拠データ]
(エチレングリコール)
甲殻類(ニセネコゼミジンコ) MATC = 4.2 mg/L/7days (環境省リスク評価第3巻, 2004)
(塩素化フタロシアニングリーン)
甲殻類(オオミジンコ) NOEC >= 1 mg/L/21days (SIDS, 2010)
水溶解度： (エチレングリコール)
100g/100ml (PHYSPROP Database, 2005)
(酸化チタン(IV))
溶けない (ICSC, 2002)
(酸化第二鉄)
溶けない (ICSC, 2004)
(フタロシアニンプルー)
溶けない (ICSC, 2006)
残留性・分解性： [成分データ]
(エチレングリコール)
急速分解性あり (BOD 分解度 = 90%/14days, 既存点検, 1988)
生体蓄積性： [成分データ]
(エチレングリコール)
log Pow = -1.93 (ICSC, 1999)
(フタロシアニンプルー)
log Pow = 6.6 (calc.) (ICSC, 2006)

13.廃棄上の注意

廃棄物の処理方法： 環境への放出を避けること。
内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。
承認された廃棄物集積場で処理する。
環境汚染を防止するために適切な容器等を使用する。

14.輸送上の注意

注意事項： 容器の輸送及び運搬は、常にしっかり固定した状態で行い、輸送中に互いに衝突して破損することのないようにあらかじめ対策をする。
直射日光、雨にばく露されないように運搬する。

国連番号、または ID 番号： 該当しない

環境有害性

海洋汚染物質： 該当しない

MARPOL 73/78 条約附属書Ⅱ及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質 (Z 類)
エチレングリコール；酸化チタン(Ⅳ)

15.適用法令

労働安全衛生法：	粉じん障害防止規則（令 19 号） 酸化チタン(Ⅳ) 名称等を表示すべき危険物及び有害物 エチレングリコール；酸化チタン(Ⅳ)；酸化第二鉄；フタロシアニンプルー；臭素化フタロシアニングリーン；塩素化フタロシアニングリーン 名称等を通知すべき危険物及び有害物 エチレングリコール；酸化チタン(Ⅳ)；酸化第二鉄；フタロシアニンプルー；臭素化フタロシアニングリーン；塩素化フタロシアニングリーン
消防法：	該当しない
化審法：	優先評価化学物質 エチレングリコール
じん肺法：	酸化チタン(Ⅳ)
大気汚染防止法：	有害大気汚染物質 フタロシアニンプルー；臭素化フタロシアニングリーン；塩素化フタロシアニングリーン
水質汚濁防止法：	指定物質 酸化第二鉄；フタロシアニンプルー；臭素化フタロシアニングリーン；塩素化フタロシアニングリーン
適用法規情報：	この物質に関する貴国又は地方の規制に関する調査は貴社の責任で処理願います。

16.その他情報

本データシートは作成時又は改訂時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報・取扱い情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行なってください。